

今、何の病気が流行しているか！

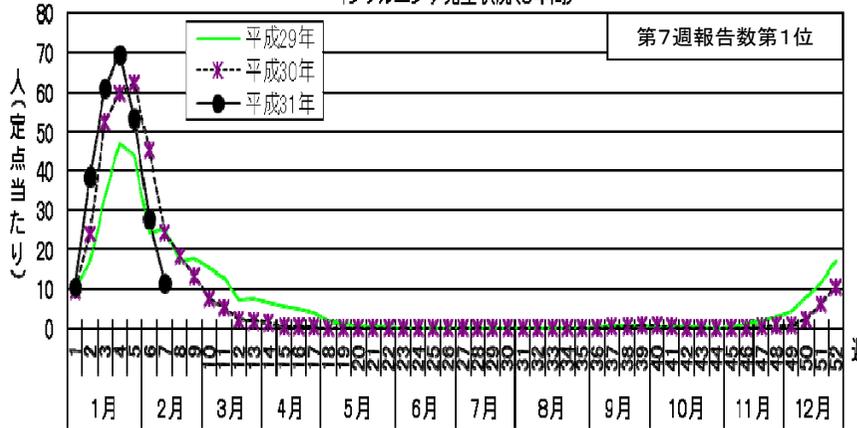
【感染症発生動向調査事業から】

平成31年2月11日（月）～平成31年2月17日（日）〔平成31年第7週〕の感染症発生状況

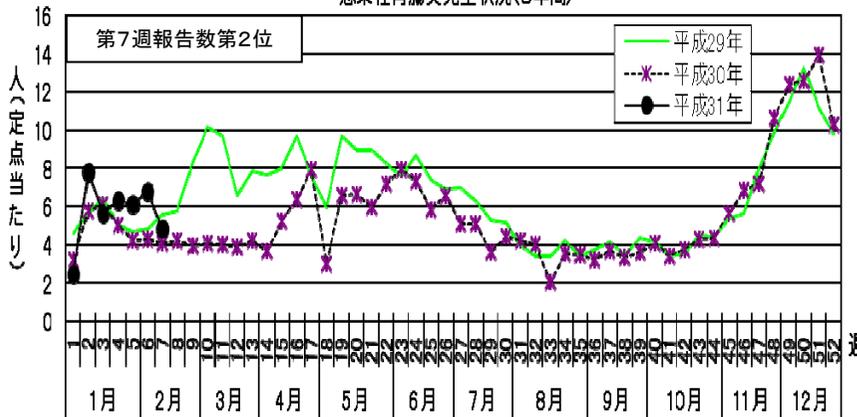
第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は11.44人と前週（27.87人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.81人と前週（6.78人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.46人と前週（2.62人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



インフルエンザ発生状況(3年間)



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



発熱を伴う発疹には注意しましょう！！～麻疹・風しん～

麻疹・風しんは、急性の熱性発疹性疾患の代表的な感染症です。麻疹は、今年の1月上旬以降、関西地方などを中心に報告数が急増しています。風しんは、昨年夏以降、全国的に報告数が増加しており、川崎市においても平成31年は、第7週（2月11日～2月17日）までに既に17件の報告がありました。

麻疹や風しんの抗体を持っていない方は感染の危険が高いため、周囲の流行状況や流行地域への旅行などには十分な注意が必要です。いずれの疾患もワクチン接種が有効で、麻疹風しん混合（MR）ワクチンを接種することで予防が可能です。

麻疹、風しんの主な特徴

	麻疹	風しん
感染経路	空気感染、飛沫感染、接触感染	飛沫感染
潜伏期間	7～18日間（最長21日程度）	2～3週間（平均16～18日間）
発熱、発疹以外の主な症状	咳、鼻汁、結膜充血、眼脂など	リンパ節の腫れなど
感染可能期間	発熱1日前から解熱後3日	発疹出現の1週間前から1週間後
その他	<ul style="list-style-type: none"> 不顕性感染*はほとんどない 妊婦が感染すると流産や早産の可能性あり 抗体価が不十分な方は、修飾麻疹***に罹患する可能性あり 	<ul style="list-style-type: none"> 不顕性感染*あり（15～30%程度）** 妊婦が感染すると先天性風しん症候群の児が生まれる可能性あり

*ウイルスに感染しても明らかな症状がみられない状態
**妊婦から胎児への風しんウイルスの感染による先天異常
***比較的軽症で非典型的な麻疹（感染力は弱い感染源になる）

